



# 札幌村郷土記念館と大友亀太郎



「お話を教えてくれた方」  
 左から札幌村郷土記念館保存会  
 会長 橋場 善光さん  
 副会長 佐藤 肇さん



「お話を聞いた小学生」  
 左から明園小学校5年生の  
 さらさん、せいなさん、  
 ららさん

札幌村の開拓の祖といわれる大友亀太郎は、江戸時代の慶応2年に幕府から石狩地方開拓を命じられ、伏籠川のほとりを御手作場(模範農場)と決め入植しました。そして、開墾や生活に必要な水を供給するために、豊平川の支流から御手作場まで水を流す水路、通称「大友堀」を完成させました。

札幌村郷土記念館保存会の橋場会長と佐藤副会長のお話では、大友亀太郎が入植した慶応2年には元町周辺に60人から70人を入植させ、亀太郎は本州から優秀な人材を集め、木を切り、家を立て、まちを作ったとのことでした。

館内を案内された3人は、当時の日用品や農具を見ながら、亀太郎入植から昭和初期にかけての人々の暮らしについて教えてもらいました。また、橋場会長が小学生だった昭和20年頃の札幌小学校では、1、2年生が同じクラスで勉強していた話を聞いて、3人は驚いた表情を隠しきれませんでした。



こんな小さな種が大きなタマネギになるんだよ  
 (橋場会長)

大きい!

▲大友堀は現在の南3条を起点に東区役所や札幌村郷土記念館裏を通り伏籠川に合流しました  
 ▲田畑の開墾には欠かせなかった農耕馬の姿に驚く3人

▲明治末期の人々の暮らしには三人も興味津々!

## 大友亀太郎が来た頃の様子を見てみよう!

※資料提供/札幌村郷土記念館



大友亀太郎像



住居だった小屋と人々 (撮影時期不明)



大友堀と言われる写真



▶東区の歴史は「札幌村開拓の祖 大友亀太郎」でも学ぶことができます。詳しくは東区民ホームページ「ようこそひがしく」をご覧ください  
 東区の歴史書籍 検索



▲左から山田館長、橋場会長、玉井事務局長

**札幌村郷土記念館**  
 札幌市東区北13条東16丁目2-6  
 TEL.011-782-2294  
 開館時間 10:00~16:00(入館無料)  
 ※入場は15:30まで  
 休館日 月曜日、祝日の翌日、  
 12月29日~1月5日

「お話を聞いて」

**さらさん**  
 橋場さんが小学生の時には1年生と2年生と一緒に勉強していたと聞いてびっくりしました。

**せいなさん**  
 最初は何もなかったところに畑を作って、今の住宅街になった話がおもしろかったです。

**ららさん**  
 今の東区になるのは昔の人がすごいたいへんでいっぱい努力したんだって思いました。